



No.29
2022.9

ホーモイ通信

高齢社会をよくする下関女性の会
(ホーモイ)

代表 田中 隆子

TEL/FAX 083-253-4892

URL: <http://www.yg-life.net/homoj/>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



この数年、前例をみない驚くことをよく見聞します。

- ・雨の降り方が局所的でバケツをひっくり返した様な激しい雨、春に25℃を超える夏日が続く異常気象等々。
- ・癌が2人に1人、男性の精子が減少している、子どもの発達障害が増えている等々。

その原因は私たち一人ひとりの生活の有様にある事を知りました。

国連は、2030年までにSDGs（持続可能な開発目標）の達成を目指し、「持続可能でよりよい世界を目指す」「誰も置き去りにしない」という大きな理念を掲げています。

未来の子どもたちのために、私たちは何をしなくてはならないのか？我々の今の世界を変える必要があります。

まずSDGs学習会を開き、学び、知る事、そして実践することではないでしょうか。

私たちが暮らす地球を守るため、世界の国々や企業、私たち市民はどうすべきか？

「つづくみらい」の為に学び、行動に移そう！

SDGsって なに？

知る



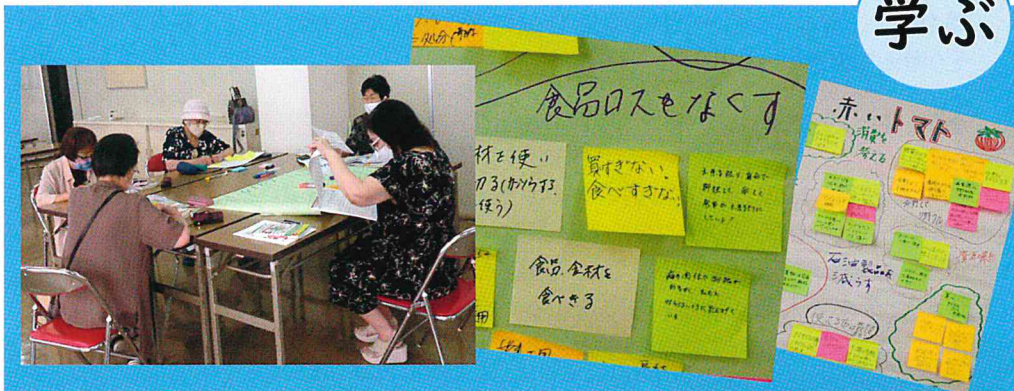
あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ。

飢餓をゼロに。

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する。

すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。

学ぶ



実践

生野きらきら子ども食堂

SDGsに取り組む

2020年12月～



パンデミックの時代（動物から人間へ）

◆はじめに

日本ではSDGsの問題が巷で取りざたされ、学校も企業もSDGsに取り組む事が新しい商機につながり、新しい産業がうまれています。私が最初に関心を持ったのは女性の問題からです。女性の生活がいかに自然と切り離せないか。男性もちろん、自然がなくなったら人間は生きていくこと自体が難しいからです。地球へのマイナスの影響を出来るだけ少なくするにはどうしたらいいか。

今、「いのちの電話」に入ってくる問題の中で、十年前までは男子と母親の問題が多かったのが、その後、娘と母親の関係性の質が問題になっています。本来娘と母親は理解し協力し合えるはずですが、それが難しくなっています。なぜかは簡単には分析できませんが、特に今、若い人が母親とのあつれきに苦しんでいます。起きてくる現象を少しでも良くするために努力をしつつ、根本を断たなければ、問題は際限なく生まれてきます。そもそも何で女性はこんなに生きづらいのか。私が女性の問題を考えるようになったのは、特に古い時代の女性達が自分を犠牲にして、したい事もできない。こんな理不尽な事があっていいのだろうかという、こどもの頃の感想からだったのです。

1975年は国際女性年です。私達北九州の会はその十年後の1985年に発足しました。高齢化問題の取り組みも色々ありますが、今問題なのは高齢女性の貧困化です。生活保護で暮らさざるを得ない人達の割合が現在の高齢女性の7割近くになるかもしれないという予測があるのです。

北九州市で女性史を編修した時、最終章で私が書いていますが、ローマ・クラブという民間のシンクタンクの地球を図る時計の話で、1973年位の時、夜中の0時に地球が終わるとすれば、今地球は7分位前だと発表しました。これは科学的根拠のない話ではなく、私は人類もそのうち絶滅危惧種の内に入と思うのです。なのでこのSDGsも「そんな、私、関係ない」と言っているとやがて全部自分の所に降ってきます。そう考えて頂きたいと思っていますのです。

◆「人類による環境破壊と動物由来感染症」
さまざまな新興感染症

日本脳炎、HIV、1976年のエボラ出血熱、2003年のSARS。2019年「COVID-19」、コロナもそうですが、予期しないものが、私達の生活に入り込んできているのはなぜか。今まで人類が出会ってこなかった色々なウィルスと出

会うようになったのは、文明の発達と共に私達が色々な技術を駆使して、自然を自分達の為に作り変えるようになったからなのです。

◆再興感染症

1937年、ウガンダ西ナイル地方で最初に確認された「西ナイルウイルス」が、20世紀終わり頃になってアメリカで死亡した患者から検出され、3年位の間にアメリカ50州のうち37州にまで広がった。

動物由来感染症の蔓延を引き起こした要因は

- ①人と物の移動形態の変化
- ②動物性たんぱく質の需要拡大
- ③持続的でない農業の拡大
- ④野生動物の捕獲と利用の拡大
- ⑤資源採掘の野放図な拡大
- ⑥都市化などがもたらす土地利用の変化

⑦気候変動、の7つが挙げられます。これらは全て人間活動の結果もたらされたものです。皆さんも黙って座っているだけでは世の中よくならない。私達が受け継いだ地球が、受け継いだ時よりも悪くならない様に、そういう努力を世界中の皆でしていくためのSDGsです。日本は、今ここにきてようやく取り組み始めた。日本のジェンダー平等指数が低いのも私達国民が、そういう事に気づくのが遅かった事の一つの表れかもしれません。

◆おわりに

一人一人の自立について。自立していないのはその人のせいなのか。

その人が、どういう環境で育ったのか、環境も教育の一つですから影響は大きいですね。色々な考え方に触れて、自分の考え方、感じ方を確かなものにしていく学習が大事です。個人を責めても片付かない話なので仕組みや制度、慣習を変える事を考えていきましょう。

今日は、SDGsの入口として地球環境から入りましたが、最後はジェンダー平等の話になりました。これからはお互いに色々考えて、まずは主人という言葉から少しずつ変えていきましょう。連れ合って生きる、人間同士ですから。そばにいる人を大切にするのは、関係性、階級とか偉いからとかではなく自然の情愛の中でそうなるのが人間として望ましいですね。

高尾京子



◆はじめに

メディアを通して私たちが知ることのできる事件は、どこかで起こっている遠い彼方の出来事のように思いがちですが、実はごく身近で、私たちの日常生活と密接なつながりをもって起きていることがたくさんあります。

プラスチックごみによる環境への影響や、いくつかの痛ましい殺傷事件など、解決を急ぐ問題はたくさんあります。

しかし原因は様ではなく複雑に絡み合っているため思いを広く深くめぐらし、行動によって解決することが必要と、いくつかの新聞記事をもとに話されました。

◆想像力はSDGsに通じる

中学3年の男子生徒が同級生を刺殺するという事件。又バス停のベンチで休んでいた高齢のホームレス女性が、目障りだったというだけで撲殺されるという事件。北九州で刑期を終えて出所してすぐの少年の無差別通り魔事件など、自分に不都合なことは許せないという行動はなぜそうなるのか？なぜ他者に対する加害行為となって表れるのか？場合によっては私にも起きた、私が被害者にも加害者にもなったかもしれない出来事だ。

結果だけをみるのではなく、何故そうなったのか、より深く、広く、想像力を働かせる事が必要で、そのことは、動物にも植物にも、又味噌、醤油、お酒などに必要な酵母菌に対してでも同じことです。単に目の前の現象だけで判断することなく、想像しかつ行動する、その事がSDGsに繋がります。

◆海洋汚染「海底ごみが映す社会」

ごく身近で起きている海洋汚染の一例として、山口県大津島で行われた海底清掃作業の様子が朝日新聞で報道されました。作業90分で440kg。空き缶から車のタイヤまでの大量のプラスチックをはじめとするゴミが回収されたのです。

世界各地の海鳥の調査からは、体内に蓄積された化学物質が見つかり、又他の魚類やウミガメなどがえさと間違えてプラスチック製品を飲み込み死亡する等。これらはみな自然の営みを顧みることなく、人間が便利さや快適さを求めたせいで他の動物が犠牲になったものです。

私たちの生活は、自然とのバランスをとることが大切です。あまりに人間中心で自然との調和を考えない行動をとれば地球が異常をおこします、過剰は異常です。

お互いを理解するための、話し合いによる解決ではなく、武器による破壊行為が戦争です。地球環境を崩すもっともバ

新聞記事からSDGsを考える



ランスを欠いた行為が戦争です。「知るべき情報を知らない無知は罪です」「偏見や差別は無知から生まれます。」私たちは知るべき公正な情報を把握することが必要で、公正な情報を得るためには相応の代価も要ります、正しく知って行動に移すことがSDGsに通じています。

ザ グッド アンcestor
◆「The Good Ancestor（よき祖先）」より

英国の文科思想家ローマン・クルツナリック氏の著書をもとにしての興味深いお話です。

現代社会は若者と高齢者との間に断絶がみられ、「今だけ・金だけ・自分だけ」の風潮が強くなりつつあります。若者はこのままでは、将来に対しての希望を見いだせないと感じる状況です。しかし物事は長いスパンで出来事を考えることが必要で、私が今ここにいるのは私の父母、またその親というように祖先があったからです。そのような意味からも将来世代のために私たちはよき祖先にならなければいけない。

「浦島太郎」や「天の羽衣」の伝承は、大切なものは海の彼方からやってきて、海の底には人間に大事なものが眠っている。そのことを小さい子どもたちにも分かりやすいように、お伽話の型で伝えてきたのではないのでしょうか？

目の前の今だけではなく、長い時間軸を取り戻すことによって、私たちはよき祖先になれるのではないのでしょうか。

何世紀にもわたって伝わる伊勢神宮の「遷宮」や、代々受け継がれてきたファミリービジネス、日本に古くから受け継がれてきた良いものは、大事に受け継がれてゆかなければならないのではないのでしょうか。

最晩年を安心して過ごせる、若者が希望を持って生きられるよう、自分の人生の一部の時間を、知るだけではなく行動に移し実践する事がSDGsに繋がります。

百 済 小 雪

←「お弁当箱は環境にやさしい容器」のチラシもお弁当と一緒に持ち帰り



お弁当配布会 利用者アンケートから
2022年7月16日(土)実施 26人(大人含む) 100%回収率

- ❁ チラシは読んでいます 19人
チラシは読んでいない 6人(めんどくさい、関心がない)
- ❁ お弁当箱は洗って青いゴミ袋へ入れています 14人
- ❁ 何か地球にやさしいことをしていますか？
・チラシの裏にお絵描きします メモにします
・ゴミの分別
・エコキャップあつめ
・川のゴミ拾い
・節電



このお弁当箱の容器は環境にやさしい製品です。

バイオマス（動植物から生まれた再利用可能な資源）を一部、原料としています

生野きらきら子ども食堂

▶お弁当容器も試行錯誤です。使いにくかったり、高価だったり。

▲お弁当は毎月、お楽しみ・・・

Withコロナ時代 改めて問われるSDGsの意味と実践

◆はじめにSDGsとは

より良い社会の実現を目指す世界共通の目標で、2015年の国連のサミットで、全ての国連加盟国が合意した「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中に掲げられた。2030 年を達成年度とし、17 ゴールと 169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」を誓っている。このままでは人類の存続がむずかしいということから全ての国連加盟国が賛成し、世界が共通して取り組むこと、持続可能な開発目標であること、誰一人取り残さないことを宣言している点で大きな意義があります。

◆コロナウイルス感染症の出現の意味

人類が築いてきた文明社会のありようというのが私たちの生活を便利により快適になるように進んできた。これが結果的に自然破壊につながった。私たちは自然の一つであるのに、自然から遠ざかった生活をするようになった。COVID-19 は、人間が踏み入れたことのないような洞窟でコウモリを宿主としてバランスを取りながら暮らしていたウイルスが、コウモリが洞窟にいらなくなり、人間の世界に近づいてきた。または人間がウイルスに近づきすぎた結果として発生したともいえます。

◆人間社会の変遷

- ① 狩猟・採集時代（自然から贈り物によって）
 - ② 農業の発明 農耕の時代（第 1 次）
 - ③ 商業の発達と大航海時代（第 2 次）欲望の噴出
 - ④ 工業の発達と産業革命（技術革新 エジソン・ベル）（動力の源泉の移動 生物から無生物へ）
 - ⑤ 情報化社会、IT 革命とデジタル化 へと変遷してきた。
- 最古は自然の贈り物によって生きてきたが、技術革新や産業革命による動力の源泉の移動により、人間社会は、生物から無生物へとシフトしていきました。特にデジタル化は社会構造に拡散と収縮をもたらしました。

植物は循環して、動きながらバランスをとっています。自分だけ良ければという生き方は行き詰まります。自分だけ、一つの国だけが良ければというのもダメで、常に連携しながら動きながら平衡バランスをとってやっていないといけません。

◆現在社会の特徴

格差の拡大と社会の分断、孤独感・孤立感と増大、自信喪失と自信過剰の二極化が、一部の人ではなく一般化している時代です。劣等感がもたらす被害者意識と裏腹に、片方で強すぎる正義感があります。強すぎる正義感は今でもあります。

◆過去のいくつかの事件から感じられること

一人で死ぬのは怖いし嫌だから、見ず知らずの人を巻きこんで自己破壊していく。これが秋葉原事件、相模原事件、大阪ビル放火殺人事件です。人類が自然の生態系の一つとして人間らしく生きていく土台が崩されています。世界全

体にゆとりがなくなり反社会的な事件があちこちでおきています。

◆どのような社会にしたいのか？

- ・弱さを受容できるゆとりある社会
- ・生きることの手ごたえを確認できる社会
- ・自分だけのためではなく危機にある「誰か」のために力を尽くせる社会



講師：富安兆子氏

このような社会にするにはどうすればよいか。人類の存続を危うくしている自然破壊や環境破壊など、みなさんの周りに材料がたくさん転がっています。これを活かしかれる自分であるのかは、一人一人の考え方、取り組み次第です。

◆終わりに

言葉には力があります。口から出す言葉は、できるだけ人が生きててよかったみたいな働きを持つ言葉を探すようになりました。

そこで皆さんにマハトマ・ガンジー（英国統治時代にインドで非暴力・不服従を貫いた国民的指導者）の言葉『明日死ぬかの如く生き、永遠に生きるかの如く学べ』を贈ります。自分たちがどんな社会を作っていきたいか、生活に即して学び続けられる場はあまりないので、ホーモイに集われたのだから、関係性を大事にしながら生き延びてください。

◆受講しての感想

現在社会の問題を具体的な事象をあげながら、広く深く講演していただき、自分自身が、今後をどう生きるかを自問自答する機会となりました。特に、自然界の中での人間の立ち位置のあるべき姿を示されたことで、地球を守る行動が喫緊の課題であると認識しました。

講師からの言葉「1人ができることはたかが知れています。1×1＝1だが、1×10＝10 ではない」を糧に、仲間とともに学び、学びで得た結果を具体的な行動につなげていきます。

岡田久子

